

金網構(大型亀甲金網+ヒンジロック)の設置手順

準備物

- ①巻き尺 ②水系 ③クリッパー ④ペンチ ⑤支柱打ち込み器
⑥六角レンチ、電動ドリル(充電式) ⑦ハンマー ⑧ゴミ入れ ⑨革手袋

一、支柱の設置



- 距離を測定し、支柱を2.5mおきに配置
(距離は、金網のスパンの倍数)



- 支柱を打ち込む
(約60cm~80cm)



- 水系を張り、金網を固定する箇所の高さをそろえる

二、補助支柱の設置



- 補助支柱と支柱の角度が約45°になるように調整
- 補助支柱を支柱に仮留め
- 補助支柱を打ち込む



- 補助支柱の上下のボルトを固定



- 補助支柱を複数使用する場合はそれぞれ個別に固定金具で固定



- 柵の始点・終点、傾斜の変化点、変曲点、ゲートには 補助支柱が必要
- 金網の設置をイメージし、補助支柱が、金網の設置の邪魔にならないように、金網の設置ラインの外側に設置

三、上部の金網設置



- 金網を拡げ、支柱の留め具に、上から引っかけて、留め具を固定

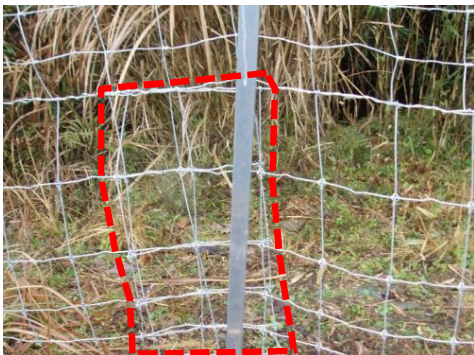
四、格子金網の始点・終点の設置



- 金網を、支柱を巻き込むように折り返す(図①)
- 折り返した金網の縦線を切断する。(図①、②)
- 結束部分を緩めて抜きとる(ヒンジロックの場合)(図②)
- 横線同士を道具(図④)を使用し巻き付けて固定する(図③)

固定に使用する道具

五、格子金網の接合



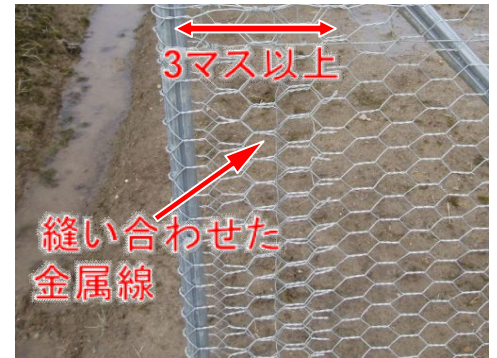
- 金網の横線同士を巻き付けて固定する方法
(1マス重ねると、強度が増す)
- 横線同士の固定は、上記参照



- 支柱を巻き込み、横線同士を固定する方法
- 横線同士の固定は、上記参照

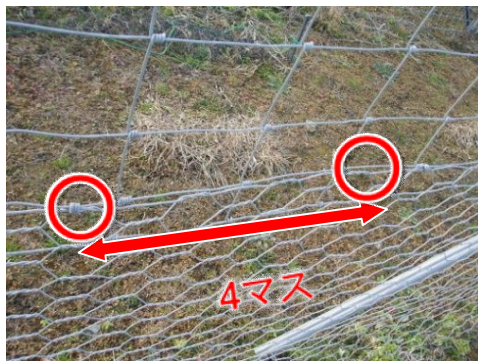


六、始点・終点の処理



- 金網の内側と外側に人が必要になる。
- 支柱を巻き込みながら亀甲金網を折り返し、3マス以上重ねる
(亀甲のマス目が合うように重ね合わせると、縫い合わせやすくなる)
- 重なった金網を、金属線で編み込んでいく (縫い合わせ方は 下図参照)

七、上下金網の固定



格子金網
1マス



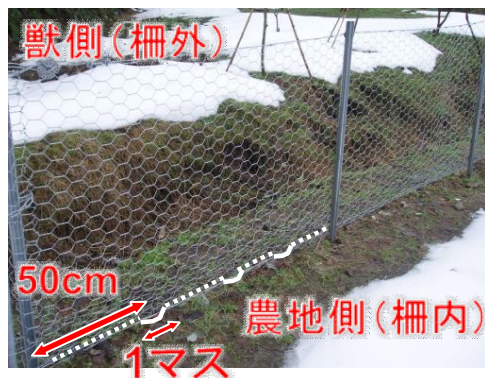
- 上網の横線と亀甲金網を、金属線で固定 (4マスごとに固定)
 - 格子金網の端の結束は弱いので、1マス分重ねると強度が上がる。
- 注: 鉄線やメッキのうすい鉄線はしようしないで、附属の金属線を使用すること

八、金網同士の接合(亀甲金網)



- 金網の内側と外側に人が必要になる。
- 金網を3マス以上重ね合わせる。
(亀甲のマス目が合うように重ね合わせると、縫い合わせやすくなる)
- マス目ひとつずつ、金属線をとおして編み込んでいく。
(附属の金属線(コイル状)を適度に伸ばし、回しながら亀甲のマス目に通すと編み込みやすい)
- 上張り線に金属線を巻き付け固定する。
- 金属線を下に引っ張り、下部金網最下部に固定する

九、下張り線（強張力線）の設置



- 強張力線が、絡まったり、キンクしないように、注意しながら繰り返す。
- 金網のマス目とあわせて、縫い込む。
(獣側に約50cm、農地側に1マス、という具合に、とあわせていく)
- 下張り用の強張力線を支柱に巻き付け固定



- 留め具の下に、強張力線を通す
- 強張力線に緊張具を取り付け、テンションをかける
- 留め具のボルトをしめて固定する。
(強く締めると、強張力線に傷がつき、強度が下がるので注意)

十、金網の支柱への固定 十一、アンカーの設置



- 留め具を使用して固定
もしくは、
- 支柱の中間にある穴に金属線をとおり、金網柵と固定

- 亀甲金網の最下部付近をアンカーで固定する。

注: 強張力線には打ち込まない
注: 誤って金網を叩いてしまうと強度がさがるので注意